Economic Indicators

発表日:2019 年 1 月 11 日(金)

国際収支(2018 年 11 月)

～経常収支(季調値)は7ヶ月ぶりに改善～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
エコノミスト 伊藤 佑隼(TEL:03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2017	5月	16,932	15,896	1,586	3,205	▲ 1,620	15,973
	6月	9,252	15,544	1,453	2,092	▲ 638	15,982
	7月	23,471	18,649	4,062	5,136	▲ 1,074	16,469
	8月	24,007	21,030	5,146	5,749	▲ 603	17,979
	9月	22,583	18,377	3,993	4,898	▲ 905	16,367
	10月	21,885	22,961	7,286	5,352	1,934	17,467
	11月	13,407	18,652	4,036	4,824	▲ 788	16,605
	12月	7,965	17,335	2,545	2,730	▲ 185	17,063
2018	1月	5,924	18,627	4,424	5,257	▲ 832	15,740
	2月	21,082	9,933	▲ 2,845	▲ 2,819	▲ 25	14,686
	3月	31,816	18,276	3,555	4,861	▲ 1,306	16,352
	4月	18,913	19,381	5,704	6,544	▲ 840	15,087
	5月	18,873	17,931	▲ 1,481	656	▲ 2,137	21,010
	6月	11,989	17,841	829	2,473	▲ 1,644	18,995
	7月	20,381	15,108	947	1,541	▲ 594	16,210
	8月	18,270	14,147	▲ 734	5	▲ 738	17,110
	9月	18,486	13,633	▲ 2,013	▲ 1,637	▲ 376	17,063
	10月	13,099	12,113	▲ 2,365	▲ 1,939	▲ 426	16,425
	11月	7,572	14,387	▲ 2,404	▲ 1,764	▲ 640	18,040

(出所)財務省「国際収支統計」

○貿易収支は原油価格の低下を背景に５ヶ月ぶりの改善

11 月の経常収支（原数値）は 7,572 億円の黒字（コンセンサス：5,676 億円の黒字、レンジ：5,040～7,814 億円）とコンセンサスを上回る結果となった。季節調整値では 14,387 億円の黒字となり、７ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。

経常収支（季節調整値）を項目別にみると、所得収支の黒字幅拡大が経常黒字拡大の主因となっている。証券投資の支払額が前月から大きく減少したことが所得収支の黒字幅拡大の要因となった。また、原油価格が低下したことを背景に輸入の伸びが鈍化したことで、貿易収支は５ヶ月ぶりに改善した。

○証券投資、直接投資ともに改善し、第一次所得収支は黒字拡大

11 月の貿易外収支（季節調整値）をみると、第一次所得収支は 18,040 億円の黒字と前月（10 月：16,425 億円の黒字）から黒字幅が縮小拡大した。直接投資（10 月：8,711 億円の黒字→11 月：8,998

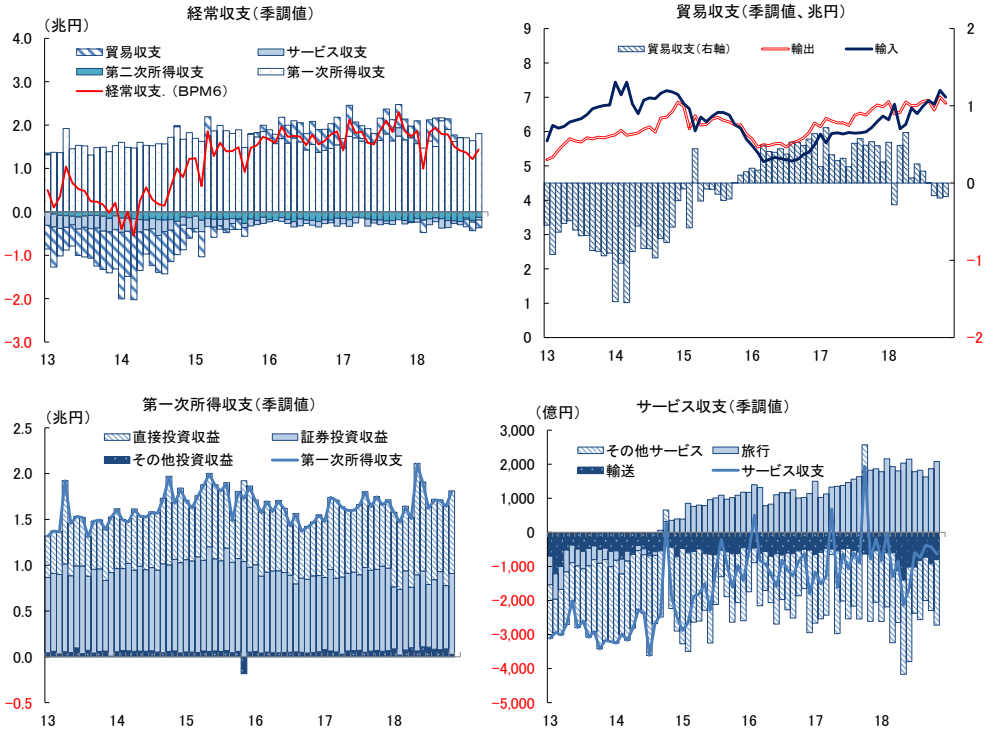
億円の黒字）、証券投資（10 月：6,907 億円の黒字→11 月：8,830 億円の黒字）ともに黒字幅を拡大させたことで、第一次所得収支は前月比プラスとなった。証券投資は受取額、支払額ともに緩やかに増加している中で、18 年以降均せば横ばい圏での動きを続けている。直接投資については、海外経済の緩やかな拡大や日本企業の積極的な海外進出が追い風となる中で、高水準での推移が続いており、経常収支の牽引役となっている。

サービス収支は、640 億円の赤字と前月から赤字幅が小幅に拡大した。内訳をみると、輸送収支（10 月：921 億円の赤字→11 月 798 億円の赤字）と旅行収支（10 月：1,870 億円の黒字→11 月:2,082 億円の黒字）は前月から改善した。訪日外客数は、自然災害の悪影響が剥落する中で、持ち直しの動きが続いており、これを受けて旅行収支も２ヶ月連続で黒字幅を拡大させている。一方、その他サービス収支（10 月：1,375 億円の赤字→11 月：1,925 億円の赤字）が赤字幅を拡大させたことで、サービス収支は前月から悪化となった。

○経常収支は緩やかながら改善すると予想

以上のように、11 月の経常収支（季節調整値）は、７ヶ月ぶりに改善した。

経常収支の先行きをみると、原油価格が 11 月以降下落基調にあることを背景に、輸入の増加基調が鈍化することで、貿易収支の改善は続くと見ている。ただし、輸出についても、減速感が見られることに加え、米中貿易戦争による不透明感が増しており、貿易収支の改善はあくまでも小幅なものにとどまるとみている。一方、所得収支については世界経済の緩やかな拡大や日本企業の積極的な海外進出が続くと見込まれ、直接投資を牽引役に引き続き高水準での推移が続くと予想する。総じて見れば、経常収支は、堅調な所得収支が下支えとなる中で、貿易収支が小幅改善することで、緩やかながら改善すると予想する。



（出所）財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。